

第3回東浦町総合計画審議会 会議録

会 議 名	第3回東浦町総合計画審議会	
開 催 日 時	平成30年6月29日（水）午後1時30分から	
開 催 場 所	勤労福祉会館 会議室1	
出 席 者	委員	会長 千頭 聡 委員 山下 享司、久米 賢治、竹田 正巳、加藤 龍雄、神谷 英一、久米 弘、小山 真弓、杉浦 義治、鈴木 鑑一、田島 由美子、都筑 一男、外山 淳恵、成田 賢治、成田 盛雄、二宮 立美、間瀬 宗則、水野 博隆、水尾 衣里、祖山 薫、戸張 里美、野村 雅廣、米島 竜雄
	事務局	町長、教育長、総務部長、生活経済部長、教育長、健康福祉部長、教育部長、建設部長、企画政策部長、建設部次長、建設部技監、企画政策課長、企画政策課主幹、会計管理者、企画政策課主幹、企画政策課課長補佐兼企画政策係長、企画政策課主査、企画政策課主事2名、第6次東浦町総合計画策定支援業務受託業者2名
議 題 (公開又は非公開の別)	1 あいさつ 2 議事 (1) 第6次東浦町総合計画策定に向けた第5次東浦町総合計画の評価について (2) 第4章 基本計画（部門別計画）について	

	3 その他
非公開の理由 (会議を非公開とした場合)	—
傍聴者の数	3名
審議内容 (概要)	議題の審議内容は、別紙のとおり
備考	

【議事要約】

開会

事務局	(開会、資料の確認)
-----	------------

1. 町長あいさつ

町長	前回の講演会の際にも申し上げたが、人口を増やそうということも大切である。しかし、根拠のないまま人口だけ増やそうといっても根性論、精神論にしかない。人口減少の問題をどのように考えていくのかを含めて議論いただければと思う。適正人口を見据えて必要なことを議論していくことも歓迎である。 十数年前は高齢者問題がトレンドであったが、今はどちらかという子育てがトレンドとなっている。ただ、高齢者問題は現在の方が喫緊の課題となっており重要な問題だ。子育て問題は現在ブームで、特に保育のキャパシティの話にいきがちであるが、他の視点にも重要なものがある。学齢期の話などもあると思う。人口を増やすために子育て支援をするわけではなく、子育て支援そのものに意味があると思う。 このようなことを念頭に置きながら、ご発言やご議論をいただけたらと思う。
----	--

2. 議事

(1) 第6次東浦町総合計画策定に向けた第5次東浦町総合計画の評価について

委員	参考資料2のP4の4項目目について、事務局が第5次は今年度末まで動いているとしているが、これは間違っているのではないか。32年度末までではないか。
事務局	おっしゃるとおり、当初計画では平成32年度末までである。しかし、資料1に記載したが、社会環境の変化等により前倒しして第6次総合計画を策定する必要があるのではないかとということで、前回の審議会では30年度末をもって第5次総合計画を終えると説明した。
委員	これは条例改正が必要なことである。議会の審議・議決を経てない現在進行中のものを、事務当局がこのような認識では大丈夫だろうか。認識違いではないだろうか。
事務局	条例というよりは審議の議案として議決を受けて32年度までとなっている。第5次の廃止議案と第6次の前倒し議案を合わせて12月議会に提案していきたいと考えている。確かに議決を受けていないの

	に 30 年度で終わると断定してしまった点は反省している。
委員	ここでいう最終的な総括とは何を意味するのか。
会長	今日は、事務局として最終的な総括の中身の議論というよりは、基本計画と第 5 次の評価の話に時間を費やしたいと思う。
事務局	(資料説明)
委員	すでに 3 回目を迎えているが、資料 1 の P 1 に総括的な内容が載っている。本来は第 1 回目の最初に出てくるものであると思う。第 5 次の総合計画を検証して、現状を把握し、情勢を分析し、なおかつ評価をして第 5 次を早めに終わらせるべきだという結論が出るのであれば賛成だ。その上で、第 6 次が出てくるべきである。役所の中の会議を見たが、第 5 次の評価の検証はどの段階で行ったのか。
事務局	第 5 次の評価の検証について、第 6 次総合計画に向けて最初の段階で現状の評価をし、新たな課題や今後予想される課題を把握した上で検討している。今回改めて評価をしないのではなく、昨年度から役場内での策定部会等で評価したものをそれぞれの施策ごとにまとめなおしたものである。
委員	第 1 回の資料 1 で第 5 次総合計画の評価についてのものがある。ここで、副題が「第 6 次総合計画策定に向けた施策動向の調査について」となっている。これは、今回の基本計画の前段になるものだと思う。総合計画は町の計画の最上位に位置づけられるものであるのに、それに対する総括的な検証が今回になって初めて出てきたのはなぜなのか。部門別の施策については検証が行われているのかもしれないが、元になる総括が出てくるのが遅いのではないか。基本構想の検証に関する認識が甘いのではないか。このことを再度指摘しておく。
会長	他にあるか。
委員	P1 の「はじめに」において、社会増に至らなかった要因として、リーマンショック以降の長期の景気後退により雇用環境が悪化したこと、行政・民間による宅地開発が減速したことを挙げていることについて、どのように解析をしたのかを確認したく思う。これはお願いになる。 次に、P8 基本成果指標【見直し】の①「健康づくり、疾病対策への取組に満足している人の割合」で H21 年度の現状値が 41%、施策を実行することで H32 年度に 50%と 9%満足度を高めるとしている。これに対して実績値が H28 年度で 44,6%となっている。目標達成率の計算が単純に資料上の①/②で 89%となっているが、私の考えでは 41%をベースに 9%改善させるということで、この 9%に対して H28 年度は 3.6%

	増加なので 3.6/9.0 で達成率は約 40%となるのではないかと思います。これは、④の「メタボリックシンドローム該当率」についても同じである。これらは、計算方法が不適切なのではないか。結果的に評価が不適切になってしまふところが他にもある可能性がある。施策の効果を適切に評価するための指標設定と、その実績を踏まえた PDCA が実務的にも回っていないのではないかと印象を抱いた。 同じような点が P22 にも見られる。基本成果指標【見直し】の①に関して、指標の見直しでこれまでにないような扱いがされていることが明記されている。基本成果指標について見直しが必要ではないかと思う。
会長	他にあるか。
委員	第 6 次に向けての第 5 次の評価ということで、2 項の推進施策の概観で定量的な部分から定性的なものが書かれているが、これは第 5 次の事業を実施していく中で新たな事業見直しをすれば済む話ではないかと思っている。第 6 次を前倒しして作ることに何が繋がってくるのか不明瞭である。各部門で施策を進めていく中で、今後の細かい事業を行う際の参考で足りるのではないかと思う。したがって、早く先に進むべきではないかと思う。 順番が逆になるが、「はじめに」では、最初に提出された第 1 章に書かれていることに少し言葉を付け加えているだけに感じる。第 6 次を作成したときの前提の人口推移が違ってきたことによって改善すべきものが第 6 次であるという説明で十分であると思う。「はじめに」で冗長な根拠をつける必要があるのか。人口減は宅地開発が進まなかったからなのか。キャパシティさえ大きくすればよかったのか。この表現は、簡単な解析だけで結論づけられていると思う。宅地に対する需要が本当にあったのか。安直に書きすぎているのではないか。
会長	他にあるか。
事務局	「はじめに」のところで、人口の社会増が 5 万 3 千人に届かなかったところの分析に関してだが、県内の全市町村の国立社会保障・人口問題研究所の人口見通しと現況の人口を見比べてこのような記載している。 人口が増える自治体は、名古屋市に隣接している自治体、企業が集積して昼夜間の人口の差が少ない自治体であった。これ以外の自治体を見たときに、リーマンショック以降大規模な宅地開発した自治体は一時的に社会増となっていた。こういった結果を踏まえまして、「はじめに」のところでは社会増が目標に至らなかった原因として、リー

	マンショック以降の景気後退と、行政・民間による宅地開発の減速を挙げている。 2点目の指標の達成率については、当初の状態からの割合で見るべきではないかというのも一つの考え方だと思う。残念ながら、指標は上がっていても、満足度が上がっていないものもある。成果評価の出し方については改めて検討し反映させていこうと思う。それぞれの部会でのご審議をお願いしたいと思う。 最後に、第5次の見直しはあくまで第5次の見直しにすぎず、第6次につながらないのではないかとのご指摘があった。たしかに、第5次総合計画の施策体系に沿った評価なので、第5次の評価にしかならないという見方もある。あくまで第5次の施策に対する評価としてご了承いただければと思う。第6次に第5次の評価が活かされるのかという観点に関しては、当然第5次から第6次に継続していくものもあるので、この後行われる基本計画のご審議の中で議論されればと思う。
会長	他の市町村でも行政評価は行われているが、行政側は頑張っているが住民側の評価が上がらないということもある。よくアウトプット指標とアウトカム指標があると言う。アウトプット指標は税金を投入した際にすぐに上がっていくものを言う。本来は住民の方の満足度があがらないといけない。これがアウトカム指標になる。アウトプットとアウトカムの間にギャップがある。それをどう埋めたらいいのかいろいろ議論するが、そこを埋め切れていない自治体が多いと思う。住民の満足度が上がってこない要因はなんなのかを皆様の中でも議論し、これからの施策で重点的に扱う点の提案を基本計画のこれからの議論の中でいただければと思う。
委員	第2回審議会の参考資料3でH29年度東浦町行政評価外部評価実施結果報告書の結果があり、これが大変立派で熱意を感じた。今後も、外部の専門家、有識者を交えた客観的な評価の実施をしていただきたいと思う。

(2) 第4章 基本計画（部門別計画）について

会長	基本計画部門別の計画について事務局のほうから全体の説明を簡潔に願います
事務局	(資料説明)
委員	総合計画の記載内容見直しの肝というのは、町に住む人が相互に協

	力してのまちづくりだと思うが、その中で、課題の表現について疑問がある。誰が何をやるのが重要で、取り組みごとに役割を書くことで意識づけすることが重要なのではないか。個々人が何をすべきかの取組を記載していく必要があると思う。
会長	あえていうならば、住民の役割、事業者の役割、行政の役割とあり、行政の役割は東浦町をはじめ多くの自治体では始めている。しかし、住民の役割がどの程度進捗しているのかを誰がどう検証するかの議論はほとんどできていない。そこも含めて部会の中でご議論いただきたいと思う。

閉会

事務局	(閉会)
-----	------

以上